

令和 2 年度事業報告書 – デイサービスセンターあじさい園 –

テーマ：自立した生活が送れるように、より良いチームケアの提供と地域支援体制の強化を図る

サブテーマ：バランスの良いデイ運営を行い、サービスの質の向上と地域支援事業への参画を行う

1. より在宅生活に着目した、自立支援サービスの提供

- ① ケアマネージャーや家族とこまめに情報共有し、課題の把握に努めた。
- ② 送迎などの機会を利用してご利用者宅を訪問し、アセスメントを実施できた。
- ③ ご利用者個々に合わせたクラブ活動を提供したが、感染予防対策のため制限された活動もあった。数人で協力して行うような制作活動は、時間を決めて一人一人取り組んで頂いて完成させるなど工夫した。また、ご利用者とともに中庭の園芸を増やし、中庭で季節感を味わえるなど、写真に撮って持ち帰ることでご家族にも満足して頂けた。

2. 地域支援体制の強化を図る

- ① 家族会は感染予防対策のため、令和 2 年度は開催しなかった。しかし、家族との連絡が薄くならないよう例年よりお便りや写真を多く持ち帰ってもらい、デイでの利用者の様子や感染対策の様子が伝わるように配慮した。
- ② 法人の秋祭りや文化祭、あいあい祭りに作品展示予定であったが、感染予防対策のためすべて中止となった。その代わりに、持ち帰り作品やデイ内での展示を多くした。デイ内に桜や天の川など四季折々の飾り付けを行い、季節感を味わってもらう工夫をした。
- ③ 令和 2 年度の坂井市介護予防事業に参画した。感染拡大予防のため、介護予防教室は 22 回中、8 回の実施となったが、マスク着用および換気の徹底により安全に教室を開催できた。教室の前後に消毒の実施を行い感染予防に努めた。

3. 働き方改革より魅力ある職場づくり

- ① 業務改善を行う予定であったが、感染対策が急務だったため、十分には行えなかった。しかし、感染予防に関する研修に積極的に参加し、業務に随時反映させたり、職員教育に活かしたりし、縮小営業とはなったものの、デイサービスから感染者が出る事はなく、業務の継続を図ることができた。

- ② 年間を通して、計画的に有給取得をすすめることができた。職員に大きなばらつきがないよう配慮できた。また、感染対策のため、県外の往来などの際、その後日を有給取得するなど有効に活用できた。
- ③ 年2回の職員面談を行い、労働環境の改善につなげられた。コロナ感染への不安が増大しないための良い機会ともなった。

4. その他

- ① 白楽荘職員のコロナ陽性者発生に伴い、2日間デイサービスを休業した。その際、全利用者一人一人に電話連絡し、謝罪と説明を行った。新型コロナウイルスの流行が始まってから家族に向けては、10回以上お知らせやお願いをしてきたため、発生時も大きな混乱なく家族や本人の理解が得られたのは良かった。
- ② 感染予防対策として、デイ内のレイアウトを考え、テーブルやソファを囲む形から教室型に変更した。リネンやカバーの交換頻度を増やした。送迎時の感染対策も行い、車内の消毒、ご利用者を乗せる前の検温や手指消毒、玄関マットの消毒を行い、感染症の持ち込みを予防できた。また、マスクを嫌がる利用者もいたが、根気よくマスク着用の声掛けすることで、全員にマスク着用の定着が図れた。
- ③ 職員内の緊急連絡網には清掃員が含まれていなかったが、法人内のコロナ陽性者発生に関する情報発信のため見直し、清掃員を含む職員全員に連絡が行き渡るようにしたことで、職員が安心して働けるよう配慮できた。また、コロナ流行初期に法人全体の部署別隔離を行った。初めは職員の理解が得られにくかったが、コロナ陽性者発生後には、感染症対策として功を奏し職員からも賛同を得られた。